

# 真菌同定試験報告書(サンプル)



**KALMOR**


本物件は、下記の作業概要通り、無事に終了致しました。

### 1-1 作業概要

(1) 作業名称 真菌の同定試験

(2) 作業目的 **【概要】**  
木枠に白い粉が発生。白い粉が真菌であるか分析を行う為、(株)ファーストラボラトリーズにて、培養試験を行った。  
また、念の為、白い粉が確認できる木枠の一部を削って頂き、同様に培養を行った。  
培養により、真菌が発生した場合は、種類を同定する。

(3) 採取

採取年月日	平成21年2月15日(日)
培地への塗布写真	 <p>写真-1 サンプルを培地へ塗布</p>  <p>写真-2 障子戸の木枠の直播き撮取</p>

- (4) 真菌拭取器具 栄研器材(株)製 ふきふきチェックⅡ
- (5) 検査用培地 ポテトデキストロース寒天（PDA）平板培地あるいは斜面培地  
クロモアガー（酵母同定用）
- (6) 培養機器 (株)ファーストラボラトリーズの「菌種同定試験報告書」を参照下さい。
- (7) 作業者 (株)ファーストラボラトリーズ：西村和子

## 1-2 管理

<b>【試験委託会社】</b>	
会社名称	： 株式会社ファーストラボラトリーズ
住所	： 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学真菌医学研究センター内
担当者	： 西村 和子

## 2-1 試験結果

※詳細は、別紙試験報告書を参照下さい。

結果

検出された菌種は、下記の通りである。

採取箇所	菌種
障子戸の木枠	<i>Penicillium</i> 属菌種
	<i>Epicoccum nigrum</i> の疑い

## 2-2 考察

同定試験の結果、*Penicillium* 属菌種及び *Epicoccum nigrum* と疑われる菌種の2菌種が検出された。

白い粉が付着した箇所の木枠の拭き取りのみでは、菌種の同定が困難と思われた為、障子戸の木枠を削って頂き、直播き撮取※を行った。

培養の結果、削った障子戸の木枠にて、*Penicillium* 属菌種が主に検出された。その為、*Penicillium* 属菌種が障子戸の木枠の汚染菌種であると考えられる。

主に検出された *Penicillium* 属菌種の特徴は下記の通りである。

※ 綿棒で拭き取ったものを培地に塗布するのではなく、削った木を直接培地にのせる方法。

## Penicillium 属菌種

世界中に広く分布し、特に土壌、空気など、室内環境から検出されている、餅、蜜柑などの青カビが代表的で、単に培養検出されるだけでなく劣化の原因にもなる。

一部にカビ毒を生産する菌種が含まれているが、カビ毒発生事故は稀で、長期間貯蔵され、カビに汚染された穀類で問題になった事がある。なお、一菌種だけ病原性のある菌種が東南アジアの山岳地帯に分布するが、本分離菌は該当しない。

### 3-1 対策方法

汚染菌種であった、*Penicillium* 属菌種の生育温湿度、対策方法は下記の通り。

- ・ 最低生育温度 5～13℃、最適生育温度 25～45℃、最高生育温度 30～52℃。
- ・ 耐乾性である為、80%～90%でよく繁殖する。
- ・ 白い粉が発生した障子部分は、上記湿度にならないよう、発生した結露の拭き取りや、除湿機などによる湿度コントロールをお勧めする。
- ・ 一般的には高温に弱く、60℃の環境下に15分程度放置する事で死滅する。
- ・ 薬剤処理として、アルコールによる殺菌や防カビ剤による対策が考えられる。

#### 【弊社防カビ対策商品】

##### プロパストップ タイプE



##### プロパストップ タイプE

アルコールと消臭剤が含まれている為、除菌、消臭に最適。  
無色透明なので、スプレーしても、見た目には問題がない。

##### プロパストップ タイプC



##### プロパストップ タイプC

有機窒素系の防カビ剤を含んでいる。住宅やオフィスなどに主に発生する環境菌の防カビ対策として最適。

— 以上 —

# 菌種同定試験 報告書

株式会社カルモア 殿

報 告 日	平成 21 年 3 月 12 日
オーダー番号	NO.S00040
検 体 番 号	K09-06

株式会社ファーストラボラトリーズ

代表取締役社長 宮治 誠

〒260-8673 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学真菌医学研究センター内

# 真菌（カビ，酵母）同定試験

## ◆ 検体

（株）カルモアより供試されたサンプル

寒天平板培地 3枚

## ◆ 培養期間

平成21年2月17日に検体到着後6日間培養、

平成21年2月23日に写真撮影と同定検査用培地に植え継ぎ、更に培養継続。

## ◆ 培地

### 1) 一次培養用

- ・真菌の生育は抑制しないが細菌の生育を抑制する

クロラムフェニコール添加ポテトデキストロース寒天（CPDA）平板培地

### 2) 検査用培地

- ・ポテトデキストロース寒天（PDA）平板培地あるいは斜面培地
- ・クロモアガー（酵母同定用）

## ◆ 培養温度と培養器

25°C±1°Cの孵卵器

## ◆ 検査法

### 1) 肉眼検査

### 2) 顕微鏡検査

菌種により掻き取り標本あるいはスライド培養法を使用

# 検査結果についてのお知らせ

依頼機関	株式会社カルモア
依頼者名	斎藤 あゆみ 殿
通知日	平成 21 年 3 月 12 日

検体番号	菌種番号	同定菌名
K09-06	菌種 1	<i>Penicillium</i> 属菌種
	菌種 2	<i>Epicoccum nigrum</i> の疑い

## 菌種1 *Penicillium* 属菌種

ペニシリウム属は世界中に広く分布し、特に土壌、空気、各種貯蔵穀類、果実など、室内環境から検出されています。餅、蜜柑などの青カビが代表的で、単に培養検出されるだけでなく劣化の原因にもなります。特別の菌種菌株がチーズなどの発酵、薬品製造に用いられる事はよく知られています。一部にカビ毒を生産する菌種が含まれ、カビ毒、シトリニン、シトレオビリジン、オクラトキシンなどが知られています。しかしながら、発生事故は稀で、長期間貯蔵され、カビに汚染された穀類で問題になった事がありました。なお、1菌種だけ感染性のある菌種が東南アジアの山岳地帯に分布しますが、本分離菌は該当しません。ペニシリウムの他菌種が感染する事は極めて稀です。

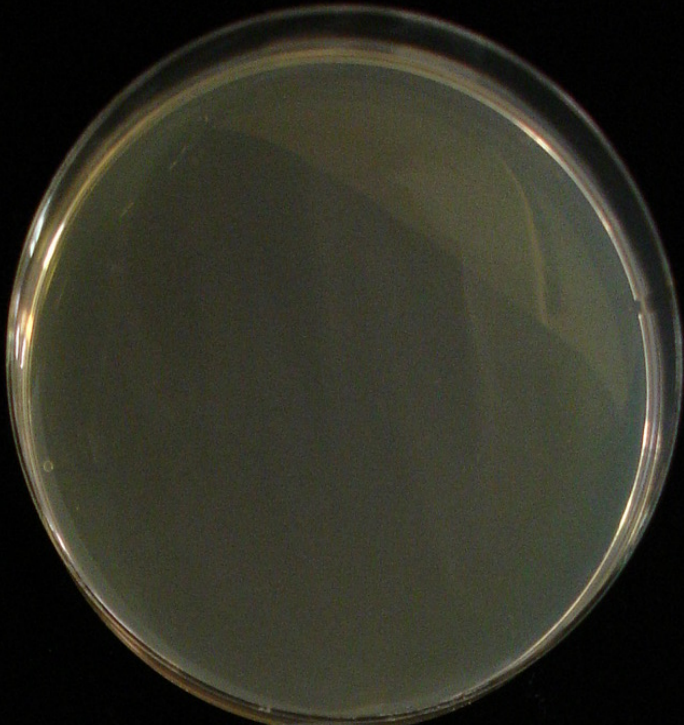
## 菌種2 *Epicoccum nigrum* の疑い

現在も分生子を着生していないので、念のためにリボソーム RNA 遺伝子の解析を致しました結果、ジーンバンクのデータベースでは表記の菌種がヒットしました。集落の性状は一致しますが、分生子が認められないので、疑いに留めます。

本菌種は世界中に分布し、土壌、植物、穀類、豆類、ナッツ類、果実、野菜、生肉、食肉加工品、魚類加工品、鶏卵などから検出されています。感染性、カビ毒生産性は知られていません。

株式会社ファーストラボラトリーズ

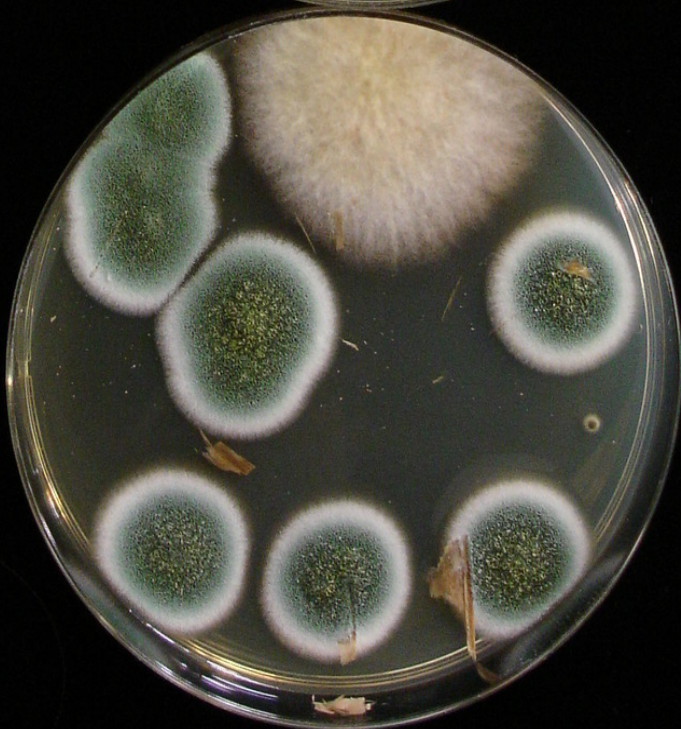
西村 和子 印



検体番号	K09-06
シテ-I-No. / 建物名	1-1 戸建 / 和室
採取箇所	障子戸の木枠
採取年月日・時刻	2009.2.15 9:30
委託元・依頼日	株式会社 藤力 2.16



検体番号	K09-06
シテ-I-No. / 建物名	1-2 戸建 / 和室
採取箇所	障子戸の木枠
採取年月日・時刻	2009.2.15 9:30
委託元・依頼日	株式会社 藤力 2.16



検体番号	K09-06
シテ-I-No. / 建物名	1-3 戸建 / 和室
採取箇所	障子戸の木枠 1F・1502F
採取年月日・時刻	2009.2.15 9:30
委託元・依頼日	株式会社 藤力 2.16